

太極拳＝ラジオ体操の時代は終わった。

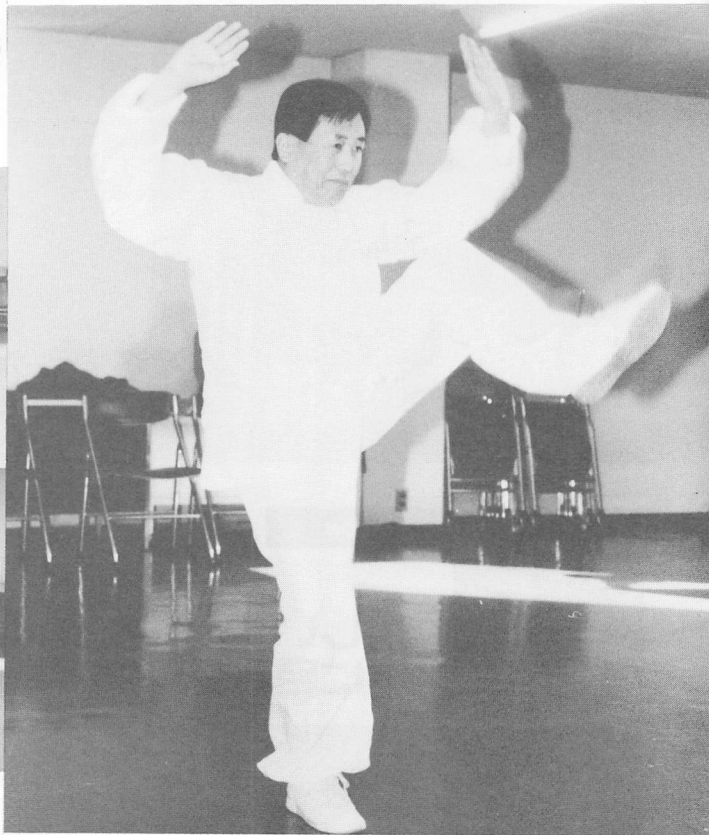
しばらく前に、太極拳がブームになったが、そのもっとも前に、日本で太極拳を普及させようとしていた大人物が京都にいた。京都生まれの京都育ち。現在、関西で約200人を指導しているという佐伯宣明さん(54)がその人。もともとは空手をやっていた、そのルーツを探りに、と同時に中国武術(特に南拳)も覚えようと、中国へ修行に。香港→台湾と渡っている修行の途中、朝、目を覚ましてホテルの窓から外を見ると、公園で人が集まって何やら奇妙に動いている。よく見ると、そのスローな動きの中には中国武術の型がたくさん取り入れられていて「こんなラジオ体操のようなものに、どうして武術の型が入っているのか?」とたいへん驚いたという。こうして興味を持ったが最初、彼は太極拳の道を歩むことになる。30代前半のことである。

1972年、日本と中国の国交が回復すると、太極拳を普及するために中国から武道家が出てくるようになった。そんな関係で、佐伯さんも上海・北京を頻りに訪れるようになったそうだ。

佐伯さんは、太極拳を武術の見地からとらえている。それを裏付けるかのごとく、現在は太極拳教室の他にも、空手道場や中国武術の教室も開いて、武術普及に努めている毎日だ。佐伯さん曰く「今の日本は、西洋文明が大流行り。歴史わずか200年の文明に毒されて、2000年とも3000年ともいわれている東洋文明を忘れてきている感がある。現代人が病気になるかかやすいというのは、このへんにも原因があるんじゃないですかね」

こんな名言も。「日本は資源が少ないですよ。だから、人間が資源ですわな」

健康法として、武術として、見直されつつある太極拳。近いうちにアジア大会の正式種目に、さらにはオリンピックの正式種目という働きかけも盛ん。今から始めれば、オリンピック日本代表も夢ではない!?



**ALL
SORTS
OF
MEN.**

京都にはいろんな男がいる

現代歯科医的回遊の真髓。

光安正守さん、32才。「基本的に仕事はクライ!」という歯医者さんである。話は趣味のことから始まった。

「趣味といえば、水上スキーと魚を打ちに行くことぐらいですかね。両方とも、ボクは海でやるんですケド……。場所は日本海と瀬戸内海が多いですね。瀬戸内海は、今はもう汚なっちゃったけど、昔はキレイやったんですよ、ホンマに。1年に1回は南西諸島へ行きます。あっちの方が、海は断然キレイやからねエ。」

(思わず、語調も勢い良くなり……。)そしてときどき、南の南の端、パラオとかヤップへも行きます。そこまで行くと、他の海とは比べモノになりませんからねエ。1回でもあの海を見たら、日本の海なんか海とは呼べないくらいですよ」

魚を打つときは、素で潜るという。ポンベをかついで銃を打ったら、違法になるということらしい。「最近では昔と違って、魚も養殖が多い。だから、ポンベは×(ダメ)なんですヨ」と指でバツを作って、ニコリ笑う光安さん。

「お酒? 飲みますよ。でも、街に繰り出して飲むっていうのは少ないな。家で飲むことが多いですね。でも、いちばん好きな飲み方は、海で飲むゆうのやねエ。水上スキーでいい汗かいた後、沖に船出して、みんなで飲むシャンパンは最高! 太陽の光をサンサンと浴びて飲むのって、ホント気持ちいいですから。人間はお日さんと向かいあってるのが、いちばん自然なんですから」とアウトドア談義が弾んだところで、「最近、街ではインドア(特にお店)で遊ぶというのが流行っていますが……。?」という質問をぶつけてみた。

「よう分からんけど、何か不健康な気がする。ディスコもたくさんあるみたいやけど、ボクはもう『受ける遊びの時代』は終わった



と思うね。店から遊びを提供してもらってというのは。みんな、自分でもっと遊びを創り出して楽しんでほしいね」

こんな風に考えている人たちが、もっと京都で遊んでくれたら、この街も面白くなるんじゃないかという気もする。光安さん、海もいいけど、たまには街で遊んでくださいよ。